

「少子化の原因は？」

異次元の少子化対策を岸田内閣が発表した。なにしろ 2022 年の合計特殊出生率、つまり女性が一生のうちに何人の子どもを産むのかと言う値が、ついには 1.26 と過去最低を記録しているのだから、政府もやっと本気になったようだ（以前にも本気の対策を講じると言っただけ）。児童手当や育休給付金の拡充、誰でも通園制度など様々な施策と大幅な予算増額が予定されている。少子化対策に 3 兆円を投じるらしい。報道を受けて財源はどうするのか、本当に効果があるのか、様々な疑問が浮かぶが、どうもすっきりしない自分がいる。

保育の充実など子どもを産み育てやすい環境を作る、子育てや教育に係る金銭的負担を軽減するなど、どれもが当然必要な政策だとも思う。しかし、既婚女性の特殊出生率は 1.93 と理論上ほぼ人口を維持される数値 2.0 に近い値が出ている。つまり、結婚した女性は過去と変わらず出産しているにも関わらず、少子化は止まらないのだ。既婚女性が減少している、つまり結婚しない女性の割合が増えていることが、少子化の根本的な原因と言わざるを得ないのではないか。政府の少子化対策にそれが具体的に盛り込まれていないのはどうしてだろうと不信感を抱いている。

実に 30 年間実質賃金は上がらず、非正規雇用にも耐え、結婚後の安定した生活への希望は見いだせない故に、若者の結婚生活へのあこがれも消えつつあるのか？ そういえば「結婚適齢期」という言葉も聞かなくなった。お見合い写真を持ってくるおせっかいなおばさんはどこへいったのだろう。SNS は中年層の結婚希望者の利用が多いらしい。また、年収の多い女性が自分より年収の少ない男性と結婚するいわゆる逆格差婚も少ないらしい。女性は経済的安定とイケメンを求めている。日本では、結婚して妊娠・出産がひとつの常識なので、フランスのような未婚女性の妊娠・出産は限りなく少ない。萬田久子のような人生を勧めるつもりはないが。

「僕の髪が肩まで伸びて、君と同じになったら♪・・・結婚しようよ♪・・・僕の髪はもうすぐ肩まで届くよ♪」(吉田拓郎『結婚しようよ』1972年)

この年の合計特殊出生率は 2.14 であった。こんな時代はもう来ないのだろう！

(丹羽 豊)